LifeSize® Control™

インストールガイド

January 2009

Copyright Notice

©2005 - 2009 LifeSize Communications Inc, and its licensors. All rights reserved.

LifeSize Communications has made every effort to ensure that the information contained in this document is accurate and reliable, but assumes no responsibility for errors or omissions. Information in this document is subject to change without notice. Companies, names, and data used in examples herein are fictitious unless noted. This document contains copyrighted and proprietary information, which is protected by United States copyright laws and international treaty provisions. No part of the document may be reproduced or transmitted, in any form or by any means, electronic or mechanical, for any purpose, without the express written permission from LifeSize Communications.

Trademark Acknowledgments

LifeSize® is the trademark of LifeSize Communications Inc. All other trademarks are the property of their respective owners.

Patent Notice

For patents covering LifeSize® products, refer to http://www.lifesize.com/support/legal.

Contacting Customer Support

If you have questions, concerns, or need assistance, contact your LifeSize Channel Partner.

Providing Customer Feedback

LifeSize Communications welcomes your comments regarding our products and services. If you have feedback about this or any LifeSize product, please send it to feedback@lifesize.com. Contact information for LifeSize Communications is as follows:

Method	*Address*
Internet	http://www.lifesize.com
E-mail	support@lifesize.com
Phone	(877) LIFESIZE or (877) 543-3749 (512) 347-9300
Fax	(512) 347-9301

LifeSize® Control™ へようこそ

LifeSize Control は、IP 環境でビデオおよび音声通信システムを管理するネットワーク管理者向けの包括的な管理ソフトウェア ソリューションです。LifeSize Control を使うと、複数のベンダーからのビデオ通信ネットワークを、Web ブラウザを使用する 1 つのコンソールから監視、スケジュール、管理、レポートできます。

LifeSize Control には、次の機能が備わっています。

- リアルタイムのステータスおよびイベント通知付き、完全な標準ベースのビデオ デバイス管理機能
- LifeSize およびサードパーティ ベンダーからのデバイス サポート LifeSize Control でサポートされているサードパーティのデバイス リストについては、www.lifesize.com の Support ページにあるリリース ノートを参照してください。
- Microsoft Exchange/Outlook と統合できる会議スケジュール
- 収集したパフォーマンスデータのレポート生成
- アップグレードおよびメンテナンスの中央管理

このガイドでは、LifeSize Control のインストール方法について説明します。リリース ノートを含む関連マニュアルは、www.lifesize.com の Support ページからダウンロードできます。

旧バージョンからのアップグレード

この LifeSize Control リリースは、バージョン 3.x からのアップグレードをサポートしています。操作を続ける前に、17 ページ の 「LifeSize Control のアップグレード」でアップグレードの前提条件に関する情報を参照してください。3.0 以前のバージョンからアップグレードする場合は、LifeSize のカスタマ サポートまでお問い合わせください。

インストールの準備

LifeSize Control システムをインストールする前に、お使いのシステムが次の条件を満たしていることを確認してください。

ハードウェア

LifeSize Control は、次の最小サーバ構成をサポートします。

- 2.4GHz Pentium 4 プロセッサ
- 1GB RAM
- 500MB 以上のディスク ドライブ空き容量（LifeSize では 4GB を推奨）

注： LifeSize Control サーバーでは、デュアル ネットワーク インターフェイス カードはサポートされていません。

ソフトウェア

LifeSize Control をインストールする前に、次のソフトウェアがサーバにインストールされていることを確認してください。

- Microsoft Windows Server 2003 Service Pack 1（以降）または Service Pack 2（推奨）
- サーバーに次の Windows コンポーネントをインストールする必要があります。これらのコンポーネントのインストールについて詳しくは、7 ページ の 「Windows コンポーネントのインストール」を参照してください。
  - アプリケーション サーバ コンソール
  - ASP.NET
  - ネットワーク COM+ アクセスを有効にする
  - ネットワーク DTC アクセスを有効にする
  - Internet Information Server (IIS) v6.0 以降
- SSL を使って Web クライアントから LifeSize Control にアクセスする場合は、有効なサーバー証明書を取得していることを確認してください。

LifeSize Control は、Active Directory インストールを備えたサーバー、またはドメイン コントローラであるサーバーをサポートしていません。LifeSize Control をインストールするサーバーに Active Directory がインストールされていないことと、そのサーバーがドメイン コントローラでないことを確認してください。

LifeSize Control インストール プログラムは、OpenLDAP サーバー、Microsoft .NET Framework 2.0（インストールされていない場合）、PostgreSQL v8.3 をインストールします。これらのプログラムをインストールするには、管理者権限を持つユーザーとしてログインする必要があります。インストールプログラムを実行する前に、LifeSize Control をインストールしようとするコンピュータが、次の条件を満たしていることを確認してください。

- アプリケーションのインストールするための管理者権限。
- 既存の OpenLDAP インストールが存在しないこと。
- 既存の PostgreSQL インストールが存在しないこと。

- OpenSSL がサーバーに存在する場合は、バージョンが 0.9.7 以降であることを確認します。または、LIBEAY32.dll および SSLEAY32.dll ファイルを削除してください（`C:\windows\system32` フォルダにあります）。LifeSize Control インストール プログラムは、OpenSSL がサーバーに存在しない場合は、これらのファイルの互換バージョンをインストールします。LifeSize Control インストールプログラムが、以前のバージョンを検出すると、LIBEAY32.dll および SSLEAY32.dll ファイルを削除するよう促すエラーメッセージが表示されます。メッセージ ダイアログで **[OK]** をクリックし、さらにインストール ダイアログで **[** 次へ **]** をクリックして、インストール プログラムを終了します。次に、LIBEAY32.dll および SSLEAY32.dll ファイルを削除し、LifeSize Control インストールプログラムを再度実行する前に、LifeSize Control をアンインストールする必要があります。LifeSize Control をアンインストールするには、21 ページ の 「LifeSize Control の削除」を参照してください。

  注意： アップグレードを実行していて、LifeSize Control インストール プログラムが OpenSSL 既存バージョンと互換性がないというメッセージが表示された場合は LifeSize Control をアンインストールすると、インストールが削除されます。アップグレードを続行したり、既存の LifeSize Control インストールを前の状態に戻したりすることはできません。LifeSize Control をアンインストールし、前のバージョンを再インストールして、バックアップからデータベースを復元する必要があります。LifeSize Control インストールをアップグレードする場合は、アップグレードを実行する前に、既存の OpenSSL インストールをチェックしてください。アップグレードの前提条件について詳しくは、17 ページ の 「LifeSize Control のアップグレード」を参照してください。

クライアント サポート

次の要件を満たすコンピュータから、LifeSize Control ユーザー インターフェイスにアクセスできます。

- サポートされている Web ブラウザ www.lifesize.com/support にあるリリース ノートを参照）
- 256MB のメモリ
- Adobe Flash Player（サポートされているバージョンについては、www.lifesize.com/support にあるリリース ノートを参照）

ポート

LifeSize Control インストール プログラムは、OpenLDAP サーバーをインストールし、構成するよう求めるメッセージを表示します。OpenLDAP サーバーは、LifeSize Control ソフトウェアと同じサーバーにインストールされ、デフォルトでポート 389 を使用します。使用されていない場合は、デフォルトのポートを受け入れます。または、使用するサーバーの異なるポートを指定することもできます。LifeSize Control サーバーにインストールされているファイアウォールが、このポートで受信トラフィックを許可するよう構成されている必要があります。

LifeSize Control は、Microsoft の .NET フレームワークを基にしており、IIS から LifeSize 通信サーバへの通信にポート 8085 を使用します。

LifeSize Control は、Radvision および LifeSize MCU を通して会議をスケジュールする場合は、ポート 3336 を使用します。

ユーザー インターフェイスは、Windows 2003 プラットフォームのポート 80、または SSL オプションが使用されている場合はポート 443 の IIS 上でホストされます。Web サーバーのポート 4296 を介して、ダイナミック更新が提供されます。

LifeSize Control は、次の表に記載されているような標準の API を介して、ビデオ通信デバイスの管理をサポートします。これらのデバイスとの通信は、FTP、SNMP、HTTP で提供されるデフォルト ポートを通して行われます。

プロトコル	ポート
FTP	LifeSize Control から Codian、Tandberg、Polycom デバイスへの送信通信ではポート 21
Telnet	LifeSize Control から Tandberg デバイスへの送信通信では ポート 23 LifeSize Control から Polycom デバイスへの送信通信では ポート 24
SSH	LifeSize Control からの受信通信ではポート 22
SNMP v1、v3	受信通信ではポート 161 LifeSize Control は、デバイス上のこのポートに接続し、デバイスからのデータを取得します。 ポート 162 LifeSize Control は、このポートでトラフィックを検知し、デバイスからのトラップを受信します。デバイスがトラップを転送する必要がある場合は、デバイスがこのポート上の LifeSize Control サーバーに接続して、トラップを配信します。 トラップ フォーワーディングが有効な場合は、送信通信で ポート 162 アラームの転送用にノースバウンド通信を有効にすると、LifeSize Control がノースバウンド IP アドレスのこのポートに接続し、トラップを転送します。
HTTP	ポート 80
HTTPS	ポート 443

プロトコル	ポート
LDAP	LifeSize デバイスから LifeSize Control サーバーへの受信通信用 OpenLDAP でポート 389（インストール中に変更しない限り）

データストレージ

LifeSize Control は、PostgreSQL データベース管理システムでデータを保存します。インストールプログラムは、LifeSize Control と同じサーバーに PostgreSQL をインストールします。

データベース インスタンスは、信頼できる Windows 認証を使用して、作成されます。接続メカニズムは、PostgreSQL Data Provider を使用します。LifeSize Control は、H.350 互換のアドレス帳を基にした LDAP を使用します。

LifeSize Control のインストール

LifeSize Control のインストールには、次の作業が含まれます。

- Windows コンポーネントをインストールします。
- LifeSize Control インストール プログラムを実行します。

前のリリースからアップグレードする場合は、17 ページ の 「LifeSize Control のアップグレード」の手順に従ってください。

LifeSize Control Administrator

LifeSize Control インストール プログラムは、LifeSize Control Administrator もインストールします。これは、サービスのステータスの表示や変更、アプリケーション、アラーム、OpenLDAP、電子メール、Microsoft Exchange、会議、データベース管理（バックアップと復元）、ライセンス、レポート構成設定などの変更に使用する Web ベースのツールです。

LifeSize Control Administrator を開くには、
`http://<LifeSize_Control_server_ip_address>/webcontroladmin` にアクセスします。
詳しくは、LifeSize Control Administrator のヘルプを参照してください。

Windows コンポーネントのインストール

LifeSize Control をインストールする前に、サーバーに次の Microsoft Windows コンポーネントをインストールする必要があります。

- アプリケーション サーバ コンソール
- ASP.NET
- ネットワーク COM+ アクセスを有効にする
- ネットワーク DTC アクセスを有効にする
- Internet Information Server（IIS）

Microsoft Windows コンポーネントをインストールするには、次の手順に従います。

1. Windows の **[** コントロール パネル **]** から、**[** プログラムの追加と削除 **]** を選択し、左側のパネルで **[Windows** コンポーネントの追加と削除 **]** をクリックします。
2. **[Windows** コンポーネント ウィザード **]** から、**[** アプリケーション サーバー **]** を選択し、**[** 詳細 **]** をクリックします。
3. 次の必要なサブコンポーネントを有効にします。
   - アプリケーション サーバー コンソール：Web アプリケーションの管理に単一の場所を提供します。
   - **ASP.NET**：実稼動サーバーに ASP.NET Web アプリケーションを導入するのに必要です。LifeSize Control は、ASP.NET Web アプリケーションです。
   - ネットワーク **COM+** アクセスの有効化：COM（コンポーネント オブジェクト モデル）統合サービスと機能を構築します。ほとんどの LifeSize Control コンポーネントは、サービス コンポーネントです。
   - ネットワーク **DTC** アクセスの有効化：COM+ トランザクションをコーディネートします。LifeSize Control のコンポーネントは、リモートコールに DTC を使用します。
   - **Internet Information Server (IIS)**：.NET と既存の Web アプリケーションおよびサーバー用のインフラストラクチャを提供します。LifeSize Control を実行するには、デフォルトで有効になるサブコンポーネントの **[** インターネット インフォメーション サービス マネージャ **]** と **[WWW (World Wide Web)** サービス **]** が必要です。
4. **[OK]** をクリックします。
5. **[** 次へ **]** をクリックして、インストールを完了します。
6. **[** プログラムの追加と削除 **]** ウィンドウを閉じます。

インストール プログラムの実行

LifeSize Control インストール プログラムは、LifeSize Control ソフトウェアと OpenLDAP をインストールし、構成するよう求めるメッセージを表示します。LifeSize は、インストールを実行する前に、必要な次の情報を収集しておくことをお勧めしています。

- 組織の SMTP サーバーの完全修飾ドメイン名
- LifeSize Control アラームを受信するユーザーの電子メール アドレス
- LDAP 実装
- Microsoft Exchange サーバー
- OpenLDAP サーバーの IP アドレス
- OpenLDAP サーバーのポート（デフォルトはポート 389）
- OpenLDAP ディレクトリ ツリー構造のドメイン サフィックス（たとえば、*example.com* など）
- Microsoft Exchange サーバーの IP アドレス
- Microsoft Exchange サーバーのドメイン名
- LifeSize Control サーバーの IP アドレス

LifeSize Control インストール プログラムを実行するには、次の手順に従います。

1. 配布メディアを挿入しても [ようこそ] 画面が表示されない場合は、LifeSize Control の配布メディアを開き、**setup.exe** をダブルクリックします。
   a. **[** ようこそ **]** 画面で、**[** 次へ **]** をクリックします。
   b. 使用許諾の条項を受け入れ、**[** 次へ **]** をクリックします。
   c. **[** カスタマ情報 **]** 画面に情報を入力し、**[** 次へ **]** をクリックします。

      自分のみまたはサーバーの全ユーザー用に LifeSize Control をインストールするかを指定できます。
   d. デフォルトの場所に LifeSize Control をインストールするには、**[** 標準 **]** を選択します (`Program Files\LifeSize\Control`)。LifeSize Control をインストールするディレクトリを指定するには、**[** カスタム **]** を選択します。
   e. **[** 次へ **]**、さらに **[** インストール **]** をクリックして、インストールを開始します。

      インストールのこの段階が完了したら、**[LifeSize Control** の構成 **]** 画面が表示されます。
2. LifeSize Control を構成するには、次のフィールドに値を入力します。

   注： アラートには、SMTP サーバーと電子メール アドレスが必要になります。
   a. **SMTP** サーバー：組織で使用している SMTP サーバーの完全修飾ドメイン名を入力します。
   b. 電子メールの送信先：アラートを受信する受取人の電子メール アドレスを入力します。
   c. 送信者の電子メール アドレス：アラート メッセージの「送信者」のアドレスとして表示される電子メール アドレスを入力します（LifeSize_Control@example.com など）。
   d. **HTTPS** を使用しますか？: LifeSize Control サーバーと Web クライアント間の通信で SSL を使用するか、HTTP を使用するを指定します。
   e. **LifeSize Control** をデフォルトの **Web** サイトにしますか？: LifeSize Control URL の別名となるサーバーのホスト名を指定するには、**[** はい **]** を選択します。LifeSize Control にアクセスするため、次のようにブラウザでこのホスト名を入力できます。

      `http://<` ホスト名 `>`
   f. **[** 次へ **]** をクリックします。

      [OpenLDAP のインストール **]** ダイアログが表示され、続行を促すメッセージが表示されます。LifeSize Control のインストールに必要なコンポーネントである OpenLDAP は、LifeSize Control と同じサーバーにインストールされます。

3. **[** 次へ **]** をクリックして操作を続けます。

   セットアップ プログラムが、OpenLDAP サーバーをインストールします。

   [LDAP 構成 **]** ダイアログが表示されます。

4. 次のフィールドに値を入力して、LDAP サーバーの構成を完了します。

   a. **[OpenLDAP** 設定 **]** で、次のことを行います。

      - **[OpenLDAP** サーバーの **IP** アドレス **]** リストから、OpenLDAP サーバーの IP アドレスを選択します。OpenLDAP は、LifeSize Control と同じサーバーにインストールされます。
      - 使用する **[** ポート **]** を指定します。デフォルトはポート 389 です。
      - OpenLDAP ディレクトリ ツリー構造のドメイン サフィックスを指定します。たとえば、*example.com* などになります。

   b. **[** ユーザー認証 **]** で、次のいずれかのフィールドで値を選択するか、フィールドに値を入力します。

      - **OpenLDAP** 用に構成：LifeSize Control にログインするためのユーザー アカウントを作成します。[ユーザー名] と [パスワード] を入力します。

      - または -

      - **Active Directory** 用に構成：LifeSize Control にログインするための既存ドメインと既存ユーザー アカウントを指定します。指定したユーザーについては、パスワードの使用期限が切れないように設定してください。

        このオプションを選択するには、LifeSize Control をインストールするマシンがドメインとなっている必要があります。

        LifeSize Control は、Active Directory を使って認証の目的でのみユーザ アカウントにアクセスし、ユーザ アカウントの追加、削除、変更は行いません。

   注： ユーザーは、管理者権限を持つ必要があります。パスワードでは大文字と小文字は区別されます。

   c. **[LDAP** の構成 **]** をクリックします。

      構成が終わったら、ステータス メッセージが表示されます。

   d. **[OK]** をクリックして、ステータス メッセージを閉じます。

   Microsoft Exchange をサポートするための **LifeSize Control** 構成ダイアログが表示されます。

5. デフォルトで、LifeSize Control との **[Microsoft Exchange** サーバーの統合を有効化 **]** が選択されます。次のフィールドに情報を入力します。
   - **[Exchange** サーバー アドレス **]** に、Exchange サーバーの IP アドレスを入力します。
   - **[** ドメイン名 **]** に Exchange サーバーのドメイン名を入力します。
   - **LifeSize Control** 電子メール アドレスを入力します。たとえば、LifeSize_Control@example.com などになります。これは、Microsoft Exchange/Outlook との統合スケジュールを提供するために LifeSize Control が監視する電子メール アカウントです。

     注意： この電子メールボックスは、LifeSize Control 専用にしてください。一般の電子メールをこの目的で使用したり、ここで指定した電子メールをメール送信用に使用したりしないでください。この電子メールボックスを開いたり、その中に保存される電子メール メッセージを変更したりすることはできません。これを行うと、Microsoft Outlook スケジューリングと LifeSize Control スケジューリングの統合が妨害されます。また、このメールボックスのサイズを 500MB に設定してください。LifeSize Control で利用できるように、Microsoft Outlook で少なくとも 1 回このアカウントにログインする必要があります。ログインしている状態で、電子メールボックスを正しいタイムゾーンに設定します。
   - **[LifeSize Control** パスワード **]** に LifeSize Control 電子メールボックスのパスワードを入力します。
6. **[** 次へ **]** をクリックします。

   [サーバーの場所構成 **]** ダイアログが表示されます。
7. 次のフィールドの値を選択します。
   - **[** 国 **]** リストから、LifeSize Control サーバーが位置する国を選択します。
   - **[** 都道府県 **]** リストから、LifeSize Control サーバーが位置する都道府県を選択します。
   - **[** サーバーの IP アドレス **]** リストから、LifeSize Control サーバーの IP アドレスを選択します。
8. **[** 構成 **]** をクリックしてから、**[OK]** をクリックします。

   注： インストールが失敗した場合は、21 ページ の 「トラブルシューティング」を参照してください。問題を修正した後で LifeSize Control を再インストールする必要がある場合は、インストールをもう一度実行する前に、OpenLDAP サーバーと PostgreSQL データベースをアンインストールしてください。21 ページ の 「LifeSize Control の削除」を参照してください。
9. **[** 完了 **]** をクリックします。

   LifeSize Control のインストールが完了します。
10. コンピュータを再起動して、変更を適用します。

環境のセットアップ

LifeSize Control をインストールしたら、環境をセットアップします。

- Web ブラウザから LifeSize Control にアクセスします。
- ライセンス キーを使って LifeSize Control を有効にします。
- デバイスのパスワードを管理します。
- ネットワーク上のデバイスを検出します。
- Microsoft Exchange を構成し、LifeSize Control との会議スケジューリングを統合します。

これらの手順を実行したら、システムの管理を開始できるようになります。

LifeSize Control へのアクセス

サーバーで LifeSize Control をインストールしたら、サポートされている Web ブラウザからユーザー インターフェイスにアクセスできます。

最初にログインするには、次の手順に従います。

1. 次のような URL を入力して、ユーザー インターフェイスにアクセスします。

   `http://<` ホスト名 `>`

   注： LifeSize Control がサーバーのデフォルト Web サイトとして構成されていない場合は、LifeSize Control の完全なパスを入力してください。たとえば、次のように入力します。

   `http://<` ホスト名 `>/lifesizecontrol`

   LifeSize Control の起動ページが表示されます。

   注： 起動ページが表示されない場合は、21 ページ の 「トラブルシューティング」を参照してください。

2. **[LifeSize Control** の起動 **]** をクリックします。

   [LifeSize Control ログイン] 画面が表示されます。

3. **[** ユーザー名 **]** と **[** パスワード **]** を入力します。これらの値は、10 ページのステップ 4 でユーザー認証用に入力したユーザー名とパスワードです。

   注： ブラウザでクッキーが有効になっていて、**[** ログイン情報を記憶する **]** チェックボックスを選択している場合は、LifeSize Control がそれ以降のセッションでユーザー名とパスワードを記憶します。

4. **Enter** キーを押すか、**[** ログイン **]** ボタンをクリックします。

管理者権限を持つユーザーとしてログインしたら、他のユーザーをセットアップできます。詳しくは、オンライン ヘルプを参照してください。

ライセンス キーの取得

LifeSize Control を有効にするには、まずライセンス キーを取得する必要があります。

LifeSize Control をインターネットを使って自動的に有効にするには、次の手順に従います。

1. ナビゲーション バーから、**[** ライセンス マネージャ **]** を選択します。
2. **[** ライセンスキー **]** で、LifeSize Control CD に含まれているライセンス キーを入力します。
3. **[** 保存 **]** をクリックします。
4. LifeSize Control が自動的にライセンス キー サーバーと通信し、ソフトウェアのロックを解除します。

LifeSize Control をインターネット アクセスを使わずに手動で有効にするには、次の手順に従います。

1. ライセンス キーのロックを解除するリクエストを電子メールで support@lifesize.com に送信します。次の情報を含めます。
   - お客様のお名前
   - 発注番号
   - MAC アドレス
   - ライセンス キー
   - チャネルパートナーまたはリセラー（該当する場合）
2. ナビゲーション バーから、**[** ライセンス マネージャ **]** を選択します。
3. **[** キーのロック解除 **]** で、LifeSize Control CD に含まれているライセンス キーを入力します。
4. LifeSize Communications から電子メールで通知されたロック解除キーを入力します。
5. **[** 保存 **]** をクリックします。

   LifeSize Control は、入力したキー情報を使って、ソフトウェアのロックを解除します。

ライセンス情報は、**[** ライセンスの詳細 **]** に表示されます。

デバイス パスワードの管理

最初にデバイスを検出しようとすると、LifeSize Control は、**[** パスポートの管理 **]** ダイアログで、サポートされているサードパーティ デバイス（Polycom、Tandberg、Codian など）用に指定したデバイスのログイン情報を使用します。デバイス パスワードの管理について詳しくは、オンライン ヘルプを参照してください。

デバイスの検出

ネットワークでオーディオおよびビデオ通信デバイスを検出したら、これらのデバイスを管理できます。デバイスの検出および管理方法について詳しくは、LifeSize Control オンライン ヘルプを参照してください。

Microsoft Exchange の構成

音声およびビデオ通信システム用に Microsoft Exchange でメールボックス リソースを追加すると、高度なカスタマイズを使用しなくても、Microsoft Outlook のリソース スケジューリングを LifeSize Control に統合できます。

Microsoft Windows Server 2003

次の手順は、Microsoft Exchange Server 2003 のみに適用されます。Microsoft Exchange Server 2007 を使用している場合は、16 ページ の 「Microsoft Windows Server 2007」を参照してください。

Microsoft Outlook のスケジューリングと LifeSize Control を統合するのに必要なメールボックス リソースを作成するには、次の手順に従います。

注： ビデオ通信システムを設置している会議室に、スケジュールを目的とする Microsoft Exchange の会議室メールボックスがある場合は、ステップ 7 から始めてください。

1. **[** プログラム **] - [Microsoft Exchange] - [Active Directory** ユーザーとコンピュータ **]** を開きます。
2. 新しいユーザーを作成します。Active Directory を含むディレクトリのアイコンを右クリックし、**[** 新規オブジェクト **] - [** ユーザー **]** を選択します。
3. **[** フルネーム **]** と **[** ユーザー ログオン名 **]** を入力してから、**[** 次へ **]** をクリックします。
4. [パスワード] と [パスワードの確認入力] にパスワードを入力し、**[** パスワードを無期限にする **]** を選択してから **[** 次へ **]** をクリックします。
5. **[Exchange** メールボックスを作成する **]** を選択し、**[** エイリアス **]**、**[** サーバー **]**、**[** メールボックス ストア **]** を入力します。**[** 次へ **]** をクリックします。
6. **[** 完了 **]** をクリックします。
7. LifeSize Control のリスナー メールボックスへの転送をセットアップするには、ステップ 5 で作成したユーザーを右クリックし、**[** プロパティ **]** を選択します。

8. **[** プロパティ **]** ダイアログ ボックスの **[Exchange** 全般 **]** タブをクリックします。**[** メールボックス ストア **]** を入力します。**[** 配信オプション **]** をクリックします。
9. **[** 配信オプション **]** ダイアログ ボックスの **[** 転送先アドレス **]** から **[** 転送先 **]** を選択し、**[** 変更 **]** をクリックします。
10. **[** 選択するオブジェクト名を入力してください **]** ボックスで、LifeSize Control のインストール中に作成したメールボックスを入力し、**[OK]** をクリックします。
11. **[** 転送先アドレスとメールボックスの両方にメッセージを配信する **]** を選択して、**[OK]** をクリックします。
12. 会議のリクエストが自動的に処理できるよう、自動承諾エージェントでメールボックスを登録します。詳しくは、Microsoft TechNet Web サイトの「メールボックスの登録」（http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb124104(EXCHG.65).aspx）を参照してください。

    注： Microsoft Outlook の電子メールボックスが、現在のタイムゾーンで正しく設定されていることを確認します。（このオプションについては、Microsoft Outlook のヘルプを参照してください。）これは、正しいスケジューリングには欠かせません。
13. 会議室用に作成したメールボックスと LifeSize Control の該当する音声およびビデオ通信システムを関連付けるには、LifeSize Control オンラインヘルプの Microsoft Outlook と LifeSize Control の統合に関する手順を参照してください。

    注： 新しいユーザーがアクティブになるには、作成してから 5 分ほどかかる場合があります。

Microsoft Windows Server 2007

次の手順は、Microsoft Exchange Server 2007 のみに適用されます。Microsoft Exchange Server 2003 を使用している場合は、15 ページ の 「Microsoft Windows Server 2003」を参照してください。

注： 音声およびビデオ通信システムを設置している会議室に、スケジュールを目的とする Microsoft Exchange の会議室メールボックスがある場合は、ステップ 6 から始めてください。

Microsoft Outlook のスケジューリングと LifeSize Control を統合するのに必要なメールボックス リソースを作成するには、次の手順に従います。

1. Microsoft Exchange 管理コンソールを起動します。
2. ビデオ通信システムを常駐させる、会議室用のメールボックスを作成します。**[** 受信者の構成 **]** で、**[** メールボックス **]** アイコンを右クリックし、**[** 新規メールボックス **]** を選択します。
3. メールボックスのタイプで **[** 会議室メールボックス **]** を選択し、**[** 次へ **]** をクリックします。

4. 新しいユーザーを作成するか、音声およびビデオ通信システムのある会議室がすでに Active Directory のユーザーを持っている場合は、現在のユーザーを選択します。
5. ユーザーのエイリアスを入力し、該当するメールボックス データベースを選択します。**[** 次へ **]** をクリックします。メールボックスと該当するユーザーが作成されます。
6. LifeSize Control のリスナー メールボックスへの転送をセットアップするには、ステップ 5 で作成したユーザーを右クリックし、**[** メール フローの設定 **]** タブを選択します。**[** 配信オプション **]** をダブルクリックします。
7. **[** 転送先 **]** および **[** 転送先アドレスとメールボックスの両方にメッセージを配信する **]** を選択して、**[** 参照 **]** ボタンをクリックします。LifeSize Control のインストール中に作成したメールボックスを選択し、**[** 完了 **]** を選択します。
8. ビデオ通信システムと関連付けられるよう、ユーザーを有効にするには、Active Directory ユーザー管理コンソールを起動します。
9. ステップ 5 で作成したユーザーを見つけます。ユーザーを右クリックして、**[** 有効にする **]** を選択します。
10. ユーザーを右クリックして、**[** パスワードのリセット **]** を選択します。
11. [パスワード] と [パスワードの確認入力] にパスワードを入力し、**[** パスワードを無期限にする **]** を選択します。
12. Microsoft Outlook で、ビデオ通信システムの電子メール アカウントにログオンし、**[** オプション **]** を選択します。
13. **[** リソースの設定 **]** を選択し、**[** 会議出席依頼および会議の取り消しを自動的に処理する **]** を有効にします。
14. **[** 保存 **]** ボタンをクリックします。

    注： Microsoft Outlook の電子メールボックスが、現在のタイムゾーンで正しく設定されていることを確認します。（このオプションについては、Microsoft Outlook のヘルプを参照してください。）これは、正しいスケジューリングには欠かせません。
15. 会議室用に作成したメールボックスと LifeSize Control の該当する音声およびビデオ通信システムを関連付けるには、LifeSize Control オンラインヘルプの Microsoft Outlook と LifeSize Control の統合に関する手順を参照してください。

LifeSize Control のアップグレード

この LifeSize Control リリースは、バージョン 3.x からのアップグレードをサポートしています。3.0 以前のバージョンからアップグレードする場合は、LifeSize のカスタマ サポートまでお問い合わせください。

LifeSize Control インストール プログラムは、Microsoft .NET Framework 2.0 がまだインストールされていない場合は、これをインストールします。アップグレード中、LifeSize Control インストール プログラムは、IIS にインストールされているすべての Web サイトの ASP.NET バージョンを v2.0 に変更します。IIS にインストールされているが、独自のアプリケーション プールで実行されていない他のサイトは、アップグレード後正しく機能しなくなる場合があります。アップグレードの実行後にこの問題を回避するには、22 ページ の 「インストールの最後でエラー メッセージが表示される」を参照してください。

LifeSize Control Administrator

LifeSize Control インストール プログラムは、LifeSize Control Administrator もインストールします。これは、サービスのステータスの表示や変更、アプリケーション、アラーム、OpenLDAP、電子メール、Microsoft Exchange、会議、データベース管理（バックアップと復元）、ライセンス、レポート構成設定などの変更に使用する Web ベースのツールです。

LifeSize Control Administrator を開くには、`http://<LifeSize_Control_server_ip_address>/webcontroladmin` にアクセスします。詳しくは、LifeSize Control Administrator のヘルプを参照してください。

アップグレードの前提条件

LifeSize Control をアップグレードする前に、次の作業を完了してください。

- LifeSize は、アップグレードを実行する前に、LifeSize Control データベースをバックアップしておくことをお勧めします。手順について詳しくは、LifeSize Control オンライン ヘルプを参照してください。
- SharedXML フォルダとインストール フォルダにある *.config ファイルのバックアップ コピーを作成します。
- LifeSize Control がインストールされているサーバーに、少なくとも 500MB のディスク空き容量があることを確認します。
- LifeSize Control がインストールされるサーバーに Active Directory がインストールされていないことと、このサーバーがドメイン コントローラでないことを確認します。
- アップグレードを実行するための管理者権限を持っていることを確認します。
- アップグレード中に LifeSize Control が使用されていないことを確認します。
- 既存の PostgreSQL インストールが存在しないことを確認します。

- OpenSSL がサーバーに存在する場合は、バージョンが 0.9.7 以降であることを確認します。または、LIBEAY32.dll および SSLEAY32.dll ファイルを削除してください（C:\windows\system32 フォルダにあります）。LifeSize Control インストール プログラムは、OpenSSL がサーバーに存在しない場合は、これらのファイルの互換バージョンをインストールします。

  注意： LifeSize Control インストールプログラムが、以前の OpenSSL バージョンを検出すると、LIBEAY32.dll および SSLEAY32.dll ファイルを削除するよう促すエラーメッセージが表示されます。メッセージ ダイアログで **[OK]** をクリックし、さらにインストール ダイアログで **[** 次へ **]** をクリックして、インストール プログラムを終了します。次に、LIBEAY32.dll および SSLEAY32.dll ファイルを削除し、21 ページ の「LifeSize Control の削除」で説明されている手順を使用して、LifeSize Control をアンインストールする必要があります。アップグレードを続行したり、既存の LifeSize Control インストールを前の状態に戻したりすることはできません。LifeSize Control をアンインストールし、前のバージョンを再インストールして、バックアップからデータベースを復元する必要があります。LifeSize Control をアップグレードする際には、アップグレードを実行する前に、LifeSize Control がインストールされているコンピュータに互換性のない OpenSSL がインストールされていないことを確認してください。

アップグレードの実行

アップグレードを実行する前に、18 ページ の 「アップグレードの前提条件」で説明されているすべてのタスクを完了してください。組織の Microsoft Exchange サーバーの IP アドレスとドメイン名が必要です。

以前の LifeSize Control バージョンからアップグレードするには、次の手順に従います。

1. LifeSize Control 配布メディアで、**setup.exe** をダブルクリックします。プログラムが、アップグレードの対象となる既存の LifeSize Control を自動的に検出します。
2. アップグレードを続けるよう促すメッセージが表示されたら、**[** 次へ **]** をクリックします。

Microsoft Exchange をサポートするための **LifeSize Control** 構成ダイアログが表示されます。

3. デフォルトで、LifeSize Control との **[Microsoft Exchange** サーバーの統合を有効化 **]** が選択されます。次のフィールドに情報を入力します。
   - **[Exchange** サーバー アドレス **]** に、Exchange サーバーの IP アドレスを入力します。
   - **[** ドメイン名 **]** に Exchange サーバーのドメイン名を入力します。

- **LifeSize Control** 電子メール アドレスを入力します。たとえば、LifeSize_Control@example.com などになります。これは、Microsoft Exchange/Outlook との統合スケジュールを提供するために LifeSize Control が監視する電子メールボックスです。

  注意: この電子メールボックスは、LifeSize Control 専用にしてください。一般の電子メールをこの目的で使用したり、ここで指定した電子メールをメール送信用に使用したりしないでください。この電子メールボックスを開いたり、その中に保存される電子メール メッセージを変更したりすることはできません。これを行うと、Microsoft Outlook スケジューリングと LifeSize Control スケジューリングの統合が妨害されます。

- **[LifeSize Control** パスワード **]** に LifeSize Control 電子メールボックスのパスワードを入力します。

4. **[** 次へ **]** をクリックします。
5. **[** 完了 **]** をクリックします。
6. サーバーを再起動して、変更を適用します。

注 : Microsoft Exchange/Outlook スケジューリングと LifeSize Control を統合するには、14 ページ の 「Microsoft Exchange の構成」の手順を参照してください。

バックアップの復元

データベースと関連ファイルをバックアップし、これらのファイルを復元する操作は、音声およびビデオ通信システムの正しい管理に欠かせません。データベースのバックアップについて詳しくは、LifeSize Control Administrator ユーティリティのオンライン ヘルプを参照してください。

バックアップを復元するには、次のことを実行します。

1. LifeSize Control がインストールされているコンピュータで **[** コマンド プロンプト **]** ウィンドウを開きます。
2. *install_dir*`\LscUtils\DBRestore` ディレクトリにナビゲートします。

   ここで、*install_dir* は、LifeSize Control がインストールされているフォルダへのパスです。デフォルトのインストール フォルダは、`C:\Program Files\LifeSize\Control` です。

3. 次のコマンドを入力してから、ENTER キーを押します。

   DBRestore.exe “*filePath*”

   ここで、*filePath* は、データベースを復元する元バックアップ ファイルの絶対パスです。

   例：

```
C:\Program Files\LifeSize\Control\LscUtils\DBRestore>DBRestore.exe
   C:\Program Files\LifeSize\Control\DBBackup\DBBackup_date_time.bac
```

LifeSize Control の削除

LifeSize Control アンインストール プログラムは、インストールされている LifeSize Control の全コンポーネントを削除します。ただし、インストール ディレクトリ、インストール ディレクトリに保存されるログファイルやデバイスのアップグレード ファイル、LifeSize_PostgreSQL ディレクトリ（LifeSize ディレクトリと同じレベル）は、削除されません。これらのディレクトリは、LifeSize Control を削除した後で、手動で削除してください。

注： この LifeSize Control バージョンは、**[** プログラムの追加と削除 **]** ウィンドウには表示されません。

サーバーから LifeSize Control を削除するには、次の手順に従います。

1. **[** スタート **] - [** すべてのプログラム **] - [LifeSize] - [Control] - [** アンインストール **]** を選択します。
2. LifeSize Control を削除するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、**[** はい **]** をクリックします。
3. PostgreSQL を削除するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、**[** 削除 **]** を選択し、**[** はい **]** をクリックします。
4. OpenLDAP を削除するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、**[** はい **]** をクリックします。
5. コンピュータを再起動して、変更を適用します。

トラブルシューティング

LifeSize Control のインストールやアップグレードが失敗したり、インストールやアップグレード後にユーザー インターフェイスにアクセスできなくなったりした場合は、ここに記載されている情報を使用して、問題を解決してください。その他の問題、問題が解決できない場合は、LifeSize のカスタマ サポートまでお問い合わせください。

インストールの最後でエラー メッセージが表示される

次のいずれかの状態になると、LifeSize Control インストール プログラムがエラー メッセージを返して終了されます。

- 互換性のない OpenSSL バージョンが存在する。この状態を知らせるメッセージ ダイアログで **[OK]** をクリックし、さらにインストール ダイアログで **[** 次へ **]** をクリックして、インストール プログラムを終了します。次に、LIBEAY32.dll および SSLEAY32.dll ファイル（C:\windows\system32 フォルダにある）を削除し、LifeSize Control インストールプログラムを再度実行する前に、LifeSize Control をアンインストールする必要があります。LifeSize Control をアンインストールするには、21 ページの 「LifeSize Control の削除」を参照してください。
- アップグレード中にこのメッセージが表示される場合は、アップグレードを続行したり、前の状態に戻したりすることはできません。LifeSize Control をアンインストールし、前のバージョンを再インストールして、バックアップからデータベースを復元する必要があります。詳しくは、18 ページ の 「アップグレードの前提条件」を参照してください。
- 削除された前の PostgreSQL からのデータフォルダが存在し、LifeSize Control インストール プログラムが削除できない。フォルダを削除してから、LifeSize Control インストール プログラムを実行します。
- LifeSize Control の新規インストール中に、OpenLDAP または PostgreSQL がすでに存在している。OpenLDAP または PostgreSQL を削除してから、LifeSize Control インストール プログラムを実行します。
- 十分なディスク空き容量がない。サーバーのディスク空き容量を少なくとも 500MB 確保してから、LifeSize Control インストール プログラムを実行します。
- アップグレード処理がインストールされている LifeSize Control をサポートしていない。LifeSize カスタマ サポートまでお問い合わせください。

追加操作が必要なステータス メッセージ

LifeSize Control のインストール中、次のステータス メッセージが表示される場合があります。

ステータス メッセージ	理由と解決法
カスタム アクション < カスタム アクションの名前 > の VBScript ランタイムにアクセスできませんでした。	インストール中に VBScript カスタムアクションを実行するのに Windows Scripting Host（WSH）が必要ですが、ターゲット マシンに WSH がインストールされていません。 次のサイトから、Microsoft Windows Script 5.6 をダウンロードして、インストールします。 `http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=C717D943-7E4B-4622-86EB-95A22B832CAA&displaylang=en`
LDAP 情報を使って LifeSize Control データベースをアップデートできなかった。	データベースのインストール中にエラーが発生したため、LDAP データベースの構成に失敗しました。 LifeSize カスタマ サポートまでお問い合わせください。
別のプロセスで使用されているため、ファイ <OpenLDAP ファイルのパスとファイル名 > にアクセスできません。	このメッセージは、インストール処理中に、**[LDAP** 構成 **]** をクリックした直後に表示される場合があります。 **[** スタート **] - [** コントロール パネル **] - [** 管理ツール **] - [** サービス **]** を開き、OpenLDAP ディレクトリ サービスを停止します。**[LDAP** の構成 **]** をクリックして、インストールを続けます。

動的データソース構成ファイルのアップデートでエラーが発生しました。
- または -
アプリケーション構成ファイルのアップデートでエラーが発生しました。
	通常、このメッセージは、ファイルが別のアプリケーションで使用されている場合に表示されます。次のファイルがある場合は、インストールを続行できます。
	`<install_dir>\LscWeb\ASP\dynamicdatasource.xml`
	`<install_dir>\LSCService.exe.config`
	ここで、`<install_dir>` は、LifeSize Control のインストール フォルダです。デフォルトは `Program Files\LifeSize\Control` です。

アップグレード後に **IIS** にある **Web** サイトが正しく機能しない

アップグレード中、LifeSize Control インストール プログラムは、IIS にインストールされているすべての Web サイトの ASP.NET バージョンを v2.0 に変更します。IIS にインストールされているが、独自のアプリケーション プールで実行されていず、Microsoft .NET Framework の以前のバージョンに依存する他のサイトは、アップグレード後正しく機能しなくなる場合があります。アップグレードの実行後にこの問題を回避するには、次の手順に従います。

1. IIS マネージャを開きます。**[** スタート **] - [** プログラム **] - [** 管理ツール **] - [IIS** マネージャ **]** をクリックします。
2. **[Web** サイト **] - [** 既定の **Web** サイト **]** を展開します。
3. **[** 既定の **Web** サイト **]** の各 Web アプリケーションで、アプリケーションを右クリックし、**[** プロパティ **]** を選択します。
4. **[ASP.NET]** タブをクリックします。アプリケーションに対するバージョンが、適切な Framework バージョンに設定されていることを確認します。LifeSize Control では、このバージョンは 2.0 です。

デバイスのステータスがアップデートされない

他のサービスやアプリケーションがポート 161 または 162 のトラフィックを検知していると、デバイスのステータスが、ユーザー インターフェイスでの動的なアップデートに失敗します。これらのポートでは、LifeSize Control のみがトラフィックを検出していることを確認してください。ポートについて詳しくは、5 ページ の 「ポート」を参照してください。

ログインの問題

ユーザー インターフェイスにアクセスしようとしたときに LifeSize Control 起動ページが表示されない場合は、LifeSize Control がインストールされているコンピュータで次のことを実行してください。

- **[** スタート **] - [** コントロール パネル **] - [** 管理ツール **] - [** サービス **]** を開き、IIS Admin サービスのステータスが「開始」になっていることを確認します。前のリリースからアップグレードして LifeSize Control をインストールする場合は、次の手順に従ってください。
    1. **[** スタート **]>[** ファイル名を指定して実行 **]** を開きます。**[** ファイル名を指定して実行 **]** ダイアログが表示されます。
    2. **[** 開く **]** リストボックスに「`iisreset`」と入力します。
    3. **[OK]** をクリックします。

- LifeSize Control Administrator (`http://<LifeSize_Control_server_ip_address>/webcontroladmin`) にアクセスします。
  - **[** サービスのステータス **&** ポート **]** をクリックし、**[** サービス名 **]** 列に表示されている全サービスのステータスが「実行中」であることを確認します。
  - **[LDAP** 設定 **]** をクリックします。10 ページのステップ 4 で OpenLDAP サーバーに対して選択した IP アドレスが正しいことを確認します。正しくない場合は、**[** 構成 **]** をクリックします。**[LDAP** 設定 **]** ダイアログが表示されます。正しい IP アドレスを選択して、**[** 保存 **]** をクリックします。

再インストールの問題

LifeSize Control を再インストールすると、次のような問題が発生することがあります。

- LifeSize Control v3.0 をアンインストールしてから再インストールすると、次のレジストリキーのいずれかが存在する場合、再インストール中に PostgreSQL のインストールが失敗する場合があります。

  `HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\pgsql-8.2`

  `HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\pgsql-8.3`

  インストール プログラムにより、次のエラー メッセージが返されます。

  `Service PostgreSQL Database Server 8.2 (pgsql-8.2) could not be installed. Verify that you have sufficient privileges to install system services.`（Service PostgreSQL Database Server 8.2（pgsql-8.2）をインストールできませんでした。システムのサービスをインストールするのに十分な権限があることを確認してください。）

  この問題を解決するには、次のことを実行します。

  1. メッセージのダイアログで **[** キャンセル **]** をクリックします。
  2. 次のレジストリ キーを削除します。

  `HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\pgsql-8.2`

  `HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\pgsql-8.3`

  3. LifeSize Control アンインストール プログラムを実行します。**[** スタート **] - [** プログラム **] - [LifeSize] - [Control] - [** アンインストール **]** を選択します。
  4. コンピュータを再起動して、変更を適用します。
  5. LifeSize Control インストール プログラムを実行します。8 ページ の 「インストール プログラムの実行」を参照してください。